

みちしるべ

みずからのために道しるべを置き みずからのために標柱をたてよ

人になれ奉仕せよ

聖句： わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。
(ヨハネによる福音書 15：12)

保育目標：0歳児	・自分から周りの人や物に関わって楽しむ。	・大きくなったことを喜ぶ。
1歳児	・自分でやりたいという思いがでてくる。	・大きくなったことを喜ぶ。
2歳児	・自分でできることが増えたことを喜ぶ。	・大きくなったことを喜ぶ。
3歳児	・大きくなったことを喜び感謝する。	・うれしい春を待つ。
4歳児	・神さまに守られて大きくなったことを喜び感謝する。	・うれしい春を待つ。
5歳児	・神さまの守りの中で大きくなったことを喜び感謝する。	・平和の大切さを知る。

園庭の木の芽も膨らみ、土の下から子どもたちが植えたチューリップの球根の可愛い芽が出てきました。春一番が吹いた日、子どもたちは大きな袋に風を閉じ込めて空に飛ばしたり袋の端に紐をつけ風を捕まえ風のように空に上げたり…と季節を感じて楽しむ姿がありました。また寒い朝は、園庭の中央の山から霜柱を集めて喜んでいる姿も見られます。昔から三寒四温と言いますが、少しずつ冬と春を歩き来しながら季節は確実に一歩ずつ春に向かっていきますね。

今年度は、新型コロナウイルスという未だかつてない試練によって、私たちは生活を根底から見直さなければならなくなりました。今まで当たり前のように行っていた事柄に制限がかかり、どれを優先していけばよいのか何を大事に考えていたのかなど、私たちに問われる事はたくさんありました。感染すると重篤化し死に至ることもある病なので決して軽視する事はできませんが「正しく恐れていこう！」と先生たちと話し合ったことを昨日のここの様に思い出します。4,5月の休園・自粛登園に始まり、6月の分散登園・全体登園と段階を踏んで歩んできた今年度も終わろうとしています。ここまで子どもたちと園生活を送ることができましたのは、保護者の皆さまが園の姿勢にご理解をいただきご協力くださったからです。心より感謝いたします。ありがとうございました。1年を振り返ると、もっと何かできたのではないかと自分の足りなさを痛感しています。園全体の生活が始まった頃は、日常生活が送れることへの感謝と喜びでいっぱいになり、なかなか次への一歩を踏み出す事ができませんでした。次第に行事や活動の中にある子どもたちの育ちに目を向けられるようになると、より柔軟に様々な状況を想定していく事や子どもたちの育ちを保障できる新しい生活を求め試行錯誤する日々が始まりました。『これはどのようにしていけばよいのだろう?』とその度に神さまに祈り求め、何度も話し合いと検討を重ねました。行事や活動の中には、中止や延期を余儀なくされるものもありましたが、この経験を糧にしてこれからも子どもたちとの生活に活かせるようにしていきたいと思っています。

子どもたちは今、自分が見つけた居心地の良い場所で周りの人や仲間と一緒に心と身体をフルに使って遊んでいます。またその中で、他人と関わり合うことを喜び、一人ひとりが違っていることを認め合うようになっていきます。子どもたちはいったいどのようにしてそんなことができるようになったのでしょうか。まず、居心地の良い場所や仲間を見つけるためにはたくさんのエネルギーを使います。では、そのエネルギーをどのようにして蓄えているのでしょうか。先月のお誕生会私は、誕生者の列に並んでいるAくんに出会いました。彼は、自分の名前が呼ばれて舞台上上がるその瞬間まで盛んに「ドキドキする！」と連呼していました。彼の表情からは、今にも口から心臓が飛び出してしまうほど緊張していることが感じられました。でも私は彼の瞳の奥にちょっとした期待と喜びのようなものも感じました。「ドキドキする！」と繰り返し言いながらどこか嬉しそうな誇らしげな彼に、私は「ドキドキするって素敵なことじゃない!?いいなあ〜」と笑いかけました。すると、彼はニヤッと私を見て舞台上歩いていきました。人の心が動いた瞬間、何かを感じていて何かが始まり…そこに育ちがあります。日々、子どもたちは生活の中でちょっとした『ドキドキとワクワク』に出会い、それが心を揺さぶりエネルギーになって蓄えられているのでしょうか。そして、そのエネルギーは『意欲』につながっていくのだと思います。また、六浦こども園の生活の中で子どもたちは『自分で考え、選び、決めて、行う』という自己決定をたくさん経験します。自分が働きかけることで変わっていく満足感や達成感を感じることで、成功や失敗（安心して子どもたちが失敗できるように私たちはサポートしていきます）どちらの経験もすべてその子が大きくなっていく大事な栄養素になっていくと考えています。これからも私たちは、子どもたちにたくさんの『ドキドキとワクワク』に出会ってほしいと願い、環境を整えることや一人ひとりとの関わりを見つめ直すことを大切にしていきたいです。子どもたちが、新しい何かに出会った時にそのエネルギーを使い、自分の世界を広げていけるようにと願いを込めて…。

3月は巣立ちの時です。年長組の子どもたちが、六浦こども園で過ごす日々も残り少なくなりました。大人の私たちは過ぎた日々を懐かしく愛おしく振り返りますが、子どもたちは前を向いてどんどん歩いて行ってしまいます。でも、それでいいのです。子どもたちは、今を生きています!

「神さまの愛を感じて、子どもたち一人ひとりが新しい世界で自分らしく歩んでいけますように」と心から祈り求めます。

園長 鈴木 直江